

## 農山漁村振興交付金(地域活性化対策) 重点指導結果

事業実施主体名:宇賀荘ひがし地区定住促進協議会

令和 3年 5月 31日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	主たる取組メニュー名	取組概要
島根県 安来市	平成29年度	地域資源活用対策・人材活用対策	大区画ほ場整備により、農業法人による低コスト化と高付加価値化、農家レストラン・農産物直売所による加工・販売、農業経営の安定化と新規就農者の農家住宅整備による担い手の確保を図る。併せて、ひまわり栽培による交流人口の増加とひまわり油を活用した食用油の販売、GPS等を活用したICT化による職業として選択しやすく魅力とやり甲斐のある農業を目指す。

## 1. 評価委員会での評価コメント、目標達成に向けた指導・助言等

コロナ禍の影響によりイベントの開催については難しい面もあるが、ひまわりを活用した新商品については、他の商品との差を明確にした上でブランド化を図ることで、農業所得の向上を図ること。また、新規就農者を定着するためにはイチゴ等の栽培技術の向上を図ること。

## 2. 低調と評価された要因

交流人口は、台風によりイベントが中止となったことが大きな要因。  
売上げ目標の未達成については、ひまわりの生育障害や害鳥の影響により種の収穫量が少量にとどまりったことによるもの。

## 3. 目標達成に向けた方策

コロナ禍の影響により、イベントの開催等については難しい面もあるかもしれないが、ひまわりを活用した新商品については、ひまわりの生産量を確保するとともに、他の商品と差別化してブランド化を図ることで、農業所得の向上を図る。  
また、新規就農者の定着を図るためにはイチゴ等の栽培技術の向上を図る。

#### 4. 改善状況

##### ①交流人口

コロナ禍の影響により大々的なイベントの開催中止を余儀なくされたが、ひまわりの開花に伴いホームページの掲載や、訪問者によるSNSの拡散により、来訪者(交流人口約150人)の実績となった。イベントの自粛を余儀なくされるため、新たな交流人口機会の確保の為、イチゴの観光農園を開始し、新たな機会創出により約180人の来場があり、交流人口の確保に努めた。まだ目標(700人)に至ってないため、コロナ禍でありながらも交流人口増加に向けて改善を図りたい。

##### ②売上げ

ひまわりオイルの売上げについては26万円余となった。ブランド化が課題であり、販路を地元ベンチャー企業との提携を目指すと共に、化粧品業界とのOEMを協議するなど、改善に努めた。もう一つの高収益作物に位置付けているイチゴについては、安定栽培に努め、450万円余の実績となり目標達成(620千円)に至った。

##### ③雇用

新規就農者を定着するためのイチゴの栽培技術の向上に努めるとともに、観光農園やECサイトによるネット販売の開始を行い、着実に成果を伸ばせるよう努めた。